

## 消防団について

伊藤 勝美



【質問】消防団を支援する目的で、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」いわゆる「消防団支援法」が成立したが、どのように認識しているのか。

【答弁】【市長】消防団は、「将来にわたり地域防災力の中核として欠かせない代替性のない存在」であり、団員の処遇改善、装備品、訓練の充実など、消防団の強化を国や自治体に求めている内容である。

【質問】平成26年2月議会で団員の報酬について質問しているが、市長は、「近隣自治体の状況、本市の特別職報酬とのバランスを考慮して、あり方を検討す

る。」と答弁されたが、その後、どのような検討がなされたのか。

【答弁】【市長】平成25年度決算額を参考に、比較検討した結果、他市町村に比べて低い額であるのが現状である。平成27年度から見直しができるかどうか検討していきたい。

【質問】緊急時の伝達方法は、現在、市から班長以上に行なっている。しかし、班長からは「団員に伝えるのが大変困難になっている。」という声があるがどうか。

【答弁】【市長】ページング装置の老朽化も進んでいるため、今後は、防災メールで全団員に一齐に発信することを考えている。

◎屋外安全施設について

【質問】道路標識、カーブミラー、街路灯の屋外安全施設は、道路交通の安全を確保するための根幹の施設である。

市民の安心・安全を守るため、屋外安全施設の維持管理及び更新を適切に行い、その機能を保持していくことが必要不可欠である。市内における屋外安全施設の現状とその対策はどのようなものか。

【答弁】【市長】市で設置している街路灯や安全標識は、台帳で管理している。しかし、カーブミラーや警戒標識については、台帳そのものがなかったため把握されていない。

今後は、路線ごとに、どこに何があるかを含めた台帳を作成する計画である。

【その他の質問】

◎視覚障がい者の方々の広報活動支援について

## ふるさと納税について

大野 栄光



安倍内閣は「元気で豊かな地方創生」に全力を挙げるとし、「まち・ひと・しごと創生本部」を設置した。地方に元気がなければ、日本の元気はないとの地方重視が感じられる。

平成20年に始まったふるさと納税は、地方への元気をいただいたような気がする。ふるさとに諸縁のある方が、自治体に寄附を寄せて「ふるさと頑張って」、そんなメッセージが聞こえてきます。

【質問】ふるさと納税を、市の活性化にどのように活かすのか伺う。

【答弁】【市長】市では、平成20年6月から寄附の募集を始め、お礼の品は、白石藩俱樂部を

利用して、地場産品を選んでいただいている。白石の自然や歴史を守る、震災からの復旧・復興のためなど各種事業に活用している。

【質問】石巻市では、震災で失った水産物の販路の回復につながるため、生産者とともにふるさと納税の推進を頑張っている。

今後、市のふるさと納税の増額に対する方針などについて伺う。

【答弁】【市長】本年9月から、地元の特産品の販路拡大及びPRの推進をとおして、市内の産業の活性化につながるため、地元事業者が生産した特産品もお礼の品に加えていく予定である。

【質問】「交流人口拡大、おもてなしの心」を施策として掲げている本市に、ふるさと納税を行った市外の方々に、白石を訪れてもらいたい、地域資源が豊かな白石の魅力をもっと知ってもらいたい。そのような地域活性化の一助とする方法も必要であると考えますが所見を伺う。

【答弁】【市長】今後も、ふるさと納税制度だけに限らず、あらゆる面で、地域の活性化の部分を含めて、「メイド・イン・白石」を発信していきたい。

【質問】例えば、農家のお米を10俵、50俵単位で団体・企業へのお礼とする方法や、こけしや温泉への宿泊など、魅力あるお礼も大切ではないか。

【答弁】出身者のみならず白石を応援してくれる人に対しては、1万円の寄附に3千円のお礼を送るといった形をとっており、できる範囲の中で、情報発信を踏まえて、地場産品の拡大を図っていきたい。

【その他の質問】

◎農作業に組み入れた畦畔の野焼きについて